



# 中央ウェイ

# 1月号

## 昨年を振り返り、新年を迎える

副校長 姫野 滋子

あけましておめでとうございます。

新しい年を迎えた今、皆さんは何を思っていますか？新年の空気は、冷たくてきれいだなあと感じた人、今年は何に取り組もう！と決意を新たにしたり、おせち料理はおいしいと幸せを感じた人…様々だと思います。昨年の自分の行動を振り返って反省をした人もいるかもしれませんが、寝正月で太ったなあと反省している人もいるかもしれません。年末年始も関係なく、勉強に取り組んだ人もいるでしょうか。

昨年も、一昨年に引き続き、激動の一年でした。春から夏にかけて新型コロナウイルス感染症の猛威はとどまることを知らず、また、臨時休校になるのではないかと、先行きの見えない毎日が続きました。秋には、学校には登校せずに、オンライン授業を行った期間もありました。しかし、秋から冬にかけて東京の感染者数は激減していきました。専門家も、その原因を見いだせないまま、このままコロナは下火になるのか？（なってほしい…）と言うときに、新たな変異株が発見され、日本でも感染者が出始めました。（12月17日現在）この先、日本が、そして世界がどうなるか、誰にも分からない状況が続いています。

中央ろう学校では、感染症拡大防止の対策として、三つ葉祭までは保護者の方や外部の方の来校をご遠慮いただいております。しかし、感染者数の減少を受けて、保護者会と授業参観、PTAの勉強会など、保護者の皆様に来校していただく機会が少しずつ増え、学習や行事でも、人数や活動内容の制約を徐々に解除していきます。日帰りではありましたが、2年生の校外学習では、東京駅、日本オリンピックミュージアム、浅草寺の見学や浅草周辺でものづくり体験を行うことができました。

中学部の持久走大会と高等部の駅伝大会では、保護者の方の応援や豚汁の差し入れをいただくことは叶いませんでしたが、生徒の皆さんが息を切らしてそれぞれゴールを目指し、たすきリレーをつなぐために必死で走ったり、それを応援したりする皆さんの必死な表情や走り切った時の笑顔に、熱い「中央魂」を感じました。

また、いいことだけではなく、これも中高生らしい出来事なのだと思いますが、友達同士のトラブルや、教員との行き違い、一人一人の気持ちの波や解決できない悩みに苦しんでいる姿を見ることもありました。近隣の方から、電車や駅を利用しているときの皆さんの態度や登下校時に皆さんの歩く時の様子などについてご指摘をいただくこともありました。そのたびに、教員たちは、どのような言葉で皆さんに語り掛け、ご連絡くださった方へどのようにお詫びをして事態を改善するのか、考えてみなさんと向き合ってきました。

これらすべてが、中央ろう学校らしさなのだと思います。私はこの学校に来て、皆さんに出会うことができ、本当に幸せだと思っています。保護者の皆様や近隣の皆様、関係機関の方々など、多くの方々を守られて、中央ろう学校の日々が成り立っていることを感じます。そして何より、中央の皆さん一人一人の笑顔やがんばりに触れ、元気をもらっています。

皆さんも、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れずに、新しい素敵な一年を築いてほしいと願っています。

